

リトアニアでの留学体験

外国語学部 英語英文学科4年 大串 幸輝

外国語学部英語英文学科4年の大串幸輝です。私は、2022年2月から2023年1月までリトアニア共和国にて1年間派遣交換留学に努めてまいりました。今回は、リトアニアの魅力だけでなく、現地での生活や体験について言及したいと思います。

リトアニアは、元ソビエト連邦の一部であったことから、ソビエト連邦時代の建築物、文化や言語などの遺産がまだに存在しています。私は、リトアニアの第一都市であるヴィリニウスに滞在していました。留学先であるヴィリニウス大学は、寮からバスで30分〜40分ほどの場所にあるオールドタウンの中心部に位置しており、真横には大統領官邸があります。ヴィリニウス大学は、1579年に設立された歴史ある大学です。古く、東欧の建物である大学は、まるで教会の様な美しさを誇っています。また、大学の立地を考慮すると、都心部にあるので通学するついでに友人と食事に出かけたり、買い物をする事ができます。また、都心部といってもそこまで広い街ではないので、大学のクラスメイトや友人と偶然道端で会うことも頻繁にありました。その為、学業だ

けでなく日常生活を満喫することができます。

気候は地理的にも特徴的で、冬はマイナス10度くらいまで下がることも多く、晩秋から春先まで雪が降っていることがあります。私が2月に留学を開始してから、5月になっても雪が降っていたことを鮮明に覚えています。また、夏にかけて湿度がやや高くなり、日本ほどではありませんが、じめっとしていました。

大学での授業は、主に英語、リトアニア語またはロシア語で行われます。私はFaculty of Philologyという学部にも所属しており、主に言語学や文化学について学びました。他にも、リトアニア語の授業も通年で履修しました。リトアニア語のクラスは、ほとんど入生の履修生徒が留学生であるため、友達作りにも適した環境であると感じました。語学学校とは異なり、現地の学生と同じ授業を受ける為、日本とは異なる授業形式や生徒の積極性を肌で感じる事ができました。大学は世界大学ランキングで400位に位置しており、比較的高レベルな環境で学業に専念できるだけでなく、専門的な内容を英語で勉強することでさらなる語学力の向上を期待できると感じました。

私は、大学の寮に滞在していました。大学が位置するシティーセンターからバスでおよそ30〜40分ほどかかります。東欧らしい、古い建物であったので見た目がやや古びていますが、世界中から集まった留学生がそこで滞在する為、未知の言語、文化を知るきっかけや、友達作りからパーティーなど多くの学生と交流できるいい機会となりました。部屋は他学生と共同部屋で、2人用ルームまたは、3人用の部屋がありました。私が一緒に住んでいた学生は、韓国の学生と香港から来た学生でした。異なる生活習慣や文化をバックグラウンドとする学生と共に生活することは時に、難しさを感じましたが、時の経過と共に異文化理解につながった貴重な経験だったと振り返ることができず。例えばルームメイトの間で何か問題が生じても、話し合いを通して学ぶことも多かったと感じます。

多くの人が留学をするにあたって、自身の成長や新しい環境に期待している一方で、いくつかの困難や課題を克服するための絶好の機会であるとも私は感じました。私は留学1週目にコロナウイルスに感染しました。当時はコロナに感染したら、

ホテルでの隔離やそれぞれの大学に報告する義務がありました。もちろんすべて英語で対処しなくてはならないため、留学1週目の私にとっては大きな困難となりました。しかし、自分は派遣交換留学生として選ばれたという自信をもって乗り越えようと行動しました。ウエルカムパーティーに出会った友人やバディの力を借りて、なんとかすべての隔離手続きを完了し、無事隔離期間を終えることができました。留学では、たくさんの楽しい思い出がある反面、この様な苦労したこともたくさんあります。ここでは、1人で解決することもありますが、周りの人に助けを求めることや協力して何かを成し遂げる大切さに気付く機会でもあったと感じました。

留学を終えた今では、あの時大変な思いをしたけれども、なんとかして乗り越えたねと友人と笑って話すことも時々あります。留学で直面した困難に向けて行動した経験や、周りと協力して何かを成し遂げる経験は、留学を通して大きな経験値となって自身の成長につながったと感じます。リトアニアでの留学を通して経験したこと、出会った人々や行動を起こした経験は私の人生にとって大きな財産となって自身を成長させることができました。

